

第 71 回日本小児保健協会学術集会

会場開催

日時 6月21日(金)～23日(日)

会場 グランドメルキュール札幌大通公園(札幌市中央区)

テーマ 小児を中心に置いた社会の実現

プログラム 会頭講演 真部淳(北海道大学大学院医学研究院小児科学講座)／基調講演 1 小枝達也(国立成育医療研究センター特命副院長, 小児内科系専門診療部統括部長)／2 越田理恵(金沢市福祉健康局担当局長(兼)保健所長)／教育講演 1「子どもたちの権利を守る多職種連携と協働」／2「年齢・成長に対応したこれからの性教育に向けて」／3「都道府県内の定期予防接種の広域化についての調査」／4「成長曲線を用いた児童生徒等の健康管理と成長障害の早期発見」／5「若者支援, いまむかし—無関心社会の罪・漂流する子どもたち」／6「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進(通称: ギフテッド)—三重大学附属小学校の実践」／7「ゲーム依存症への対応, 支援」／8「中高生の自殺願望とメンタルヘルス対策」／9「COVID-19やエムボックスの世界規模流行の経験とこれからの感染症流行対策のあり方を考える」／シンポジウム 1「EBPM 型傷害予防の地域実装を進める」／2「小児医療を支えるのは誰か」／3「ゲノム医療と小児の人権—それぞれの立場でできること」／4「拡大新生児スクリーニングの全国実施と公費助成に向けた現状と課題」／5「子どもたちのワクワクな未来を拓く: エコチル調査, 大規模出生コホートの挑戦と展望」／6「医療的ケアのある子どもの家族が安心して子育てできる地域を創るために」／7「東日本大震災から得られた知見: みちのくこどもコホートより—親の精神健康や養育と子どもの発達に関連」／8「小児医療の地域拠点化: どこに住んでいても, 同じ医療を受けられるためには何が必要か。」／9「公的健診での保護者に寄り添う子育て支援」／10「小児保健領域における CDR の取り組み方」／11「乳幼児健診で見つかる “ちょっと気になる子” —線で行う評価と支援」／12 日本小児保健協会企画若手シンポジウム「不登校児童生徒を多職種でどう支えるか(仮)」／13「北海道の地方の子供たちにおける食物アレルギー対応—多職種の立場から

の問題提起」／他

事前参加登録期限 6月10日(月)12:00 まで

参加登録方法 下記 Web サイトの登録フォームより

HP https://www.k-cav.com/jsch71/ch_sty.html

参加費 [事前参加登録] 医師・歯科医師 1万 2000 円, 医師・歯科医師以外 8000 円, 大学院生・研修医 5000 円, 学部学生は無料(要証明書)

※大学院生, 学部学生は学生証のスクリーンショット等を運営事務局にメールで送信

問い合わせ先 運営事務局(株式会社シーエーブイ)

〒003-0004 札幌市白石区東札幌 4 条 1-2-20 安全ビル 5 階

☎ 011-837-2155

FAX 011-837-2212

✉ jsch71@kcav.co.jp

HP <https://www.k-cav.com/jsch71/>

第 52 回 JALC 母乳育児支援学習会

会場開催 WEB 開催

日時 6月22日(土)～23日(日)

オンデマンド配信 7月19日(金)10:00～

10月10日(木)15:00

会場 TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター(東京都新宿区)

テーマ 母乳育児支援の基本を見直す

プログラム 講演 1「日本における母子保健政策と COVID-19 パンデミック, 母乳率の推移」／2「入院中の母乳育児支援(理論編)早期母子接触・早期授乳」／3「入院中の母乳育児支援(実践編)早期母子接触・早期授乳」／4「授乳支援—ポジショニングとラッチ・オン」／5「早期新生児の合併症の予防と対処法—黄疸と低血糖, 母乳育児を続けていいの?」／6「生後 1 週間の補足—赤ちゃんとお母さんにやさしい支援を目指して」／7「混合栄養がいいって, ホント?」／8「混合栄養やミルクを希望する母とその家族への母乳育児支援」

対象: 母乳育児を支援する専門家(助産師, 看護師, 保健師, 医師, 歯科医師, 栄養士, 保育士など), 学生, その他母乳育児支援に興味のある人

参加登録期限 現地会場, ライブ配信 6月5日(水)15:00 まで, オンデマンド配信のみ 7月31日(水)15:00 まで

参加申込方法 下記 Web サイトより

HP <https://supportoffice.jp/jalcstudy/jalc52/>

参加費 会員 1 万 3200 円, 非会員 2 万 6400 円,
学生(医療, 保育, 福祉職等養成課程在学中)無料

問い合わせ先 NPO 法人日本ラクテーション・コン
サルタント協会

〒981-3133 仙台市泉区泉中央 2-17-3 フリー
ド泉中央 203 号

FAX 022-725-8561

✉ study52@jalc-net.jp

HP <http://jalc-net.jp>

第 60 回日本周産期・ 新生児医学会学術集会

会場開催 **WEB 開催**

日時 現地会場 7 月 13 日(土)~15 日(月・祝)
オンデマンド配信 8 月 1 日(木)~31 日(土)

会場 大阪国際会議場(大阪市北区)

テーマ シン・周産期新生児医学

プログラム 会長講演 和田和子(大阪母子医療セ
ンター)／基調講演「周産期・新生児医療におけ
る Sexual Reproductive Health/Right (SRHR)」
加藤聖子(九州大学医学研究院)／特別講演 1「こ
どもを身体・心理・社会的に捉え, 支援する医療・
保健を目指して」五十嵐隆(国立成育医療研究セ
ンター)／2「新生児殺 Neonaticide ―この非日
常, 非常識の世界を探る」蓮田健(聖粒会慈恵病
院)／招請講演 1 三島良直(国立研究開発法人日
本医療研究開発機構(AMED))／2「世界中の母
子の健康とウェルビーイングの未来像」中村安秀
(日本 WHO 協会理事長)／海外招待講演 1
「Advances in Neonatology Brought about by
Registry Research」Neena Modi (Imperial
College London)／2「Fetal Surgery ~frontline
and future perspective」William Hughes
Peranteau(Children's Hospital of Philadelphia)／
教育講演 1「次のパンデミックに備える」忽那賢
志(大阪大学大学院医学系研究科)／2「先天梅毒
の現状と診療の手引きのポイント」伊藤嘉規(愛
知医科大学医学部小児科学)／3「シン・妊娠高
血圧症候群」味村和哉(大阪大学産婦人科, 遺伝
子診療部)／4「胎児心疾患, 形態と機能, 診断
と治療」吉松淳(国立循環器病研究センター)／5
「ダウン症候群の最前線 周産期医療に携わる者
が知るべきこと, 伝えるべきこと」北畠康司(大

阪大学大学院医学系研究科小児科学教室)／6「拡
大新生児マスキングの現状と課題」中村
公俊(熊本大学大学院生命科学研究部)／7
「NICU 長期入院児問題から始まる医療的ケア
児: 支援法で何が変わったのか?」田村正徳(佐
久大学大学院)／8「母子感染総論: これまでの
歩み, これからの挑戦」森内浩幸(長崎大学大学
院医歯薬学総合研究科小児科学)／9「早産起因
微生物の探索―ウレアプラズマの巧妙な生存戦
略」柳原格(大阪母子医療センター研究所免疫部
門)／10「希少疾患における診療ガイドラインの
あり方―CDH 診療ガイドライン作成の経験か
ら」照井慶太(自治医科大学外科学講座小児外科
部門)／11「日本の NIPT の今とこれから」山田
崇弘(北海道大学病院臨床遺伝子診療部)／日韓交
流シンポジウム シンポジウム 1「本邦における
胎児治療の現状と展望」／2「新しい家族のカ
タチ―里親制度・特別養子縁組制度の普及にむけて
〜がん・生殖医療から周産期医療へ」／3「新生
児ビリルビン脳症の根絶を目指して―日本の黄疸
管理戦略会議」／4「臨床試験・ガイドライン作
成における多職種・患者家族との協働」／5「我々
は果たして NICU における Quality Improvement
を達成できたのか―NRNJ の 20 年の歴史を振り
返る」／6「母体・胎児―新生児を血栓症から守
る」／7「社会的ハイリスク妊娠を考える」／8
「産後ケア事業の現状と課題を深化する(仮)」／
9「先天性サイトメガロウイルス感染症診療の最
前線」／10「新生児外科疾患―術後の QOL と長
期予後」／11「新生児領域における網羅的遺伝
子解析―現状と課題」／12「プレコンセプショ
ンケアの現状と課題」／13「シン・帝王切開術
の術後を目指して」／14「周産期因子と CLD/
BPD」／15「低酸素性虚血性脳症に対する次世
代の治療戦略」／16「周産期死亡をとりまく日
本の現状と課題―ガイドライン作成へ向けて」／
他

問い合わせ先 運営事務局

(日本コンベンションサービズ株式会社関西支社)

〒541-0042 大阪市中央区今橋 4-4-7 京阪神渡
屋橋ビル 2F

✉ 60jspnm@convention.co.jp

HP <https://site.convention.co.jp/60jspnm/>

第 23 回日本母子看護学会学術集会

会場開催 WEB 開催

日時 現地会場 7月20日(土)／オンデマンド配信 後日

会場 総合母子保健センター愛育病院(東京都港区)

テーマ どうする 分娩

プログラム 会長講演 石川紀子(総合母子保健センター愛育病院看護部長)／教育講演Ⅰ「新生児科医の立場から分娩を語る」中野玲二(静岡県立こども病院周産期母子医療センター長兼新生児科科長)／ランチタイムセミナー「女性泌尿器とフェムテックの最近の話題」関口由紀(医療法人 LEADING GIRLS 女性医療クリニック LUNA グループ理事長・CEO)／教育講演Ⅱ「産科医の立場から分娩を語る」鈴木俊治(日本医科大学女性診療科教授)／シンポジウム「分娩を再考する」松岡隆(昭和大学医学部産婦人科学講座准教授、産婦人科医)、岩田塔子(めぐみ助産院院長)、馬目裕子(日本赤十字社医療センター看護副部長)、頓所真美(総合母子保健センター愛育病院 LDR 副院長)／[オンデマンド配信研修](CLOCMiP レベルⅢ必須研修)1「意思決定支援」／2「妊娠期の栄養」／3「臨床薬理(妊娠と薬)」／4「妊娠褥婦のフィジカルアセスメント：脳神経」

参加登録期間 [事前登録] 6月20日(木)21:00 まで、[2次受付] 6月20日(木)21:00～当日

参加費 [事前登録] 会員 5000 円、非会員 6000 円、学生(社会人除く)2000 円、[2次受付] 会員 6000 円、非会員 7000 円、学生 2000 円、[オンデマンド配信のみ] 会員・非会員 4000 円、学生 2000 円

参加登録方法 下記 Web サイトの NEWS の事前参加登録情報→登録フォームより登録

問い合わせ先 下記 Web サイトの問い合わせフォームより送信

HP https://jmica.org/23rd_jmica

第 52 回全国性教育研究大会

会場開催

日時 8月3日(土)～4日(日)

会場 宇都宮大学峰キャンパス(栃木県宇都宮市)

テーマ すべての子供たちに夢と希望が膨らむ性教育を

プログラム 基調講演「学習指導要領に基づく性に

関する指導」横嶋剛(日本女子体育大学教授・前文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官)／講演「諸外国の性教育事情と日本型包括的性教育」野津有司(全国性教育研究団体連絡協議会理事長・筑波大学名誉教授)／報告「第9回全国性行動調査(速報)」日本性教育協会／分科会Ⅰ「幼児期」「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援教育」／分科会Ⅱ「性別に違和感をもつ児童生徒への対応」「性被害、性暴力の防止教育の進め方」性に関する個別指導／講座「性教育の外部講師のためのスキルアップ(基本コース)」

対象 教職員(保育園、幼稚園、こども園、小・中・高・特別支援学校、専門学校、大学等)、保健・医療関係者(医師、看護師、助産師、保健師等)、社会教育・福祉関係者、教育行政関係者、保護者、学生、他

申込締切 7月22日(月)

申込方法 下記 QR コード、または Web サイトの



HP <https://forms.gle/QU5y3alogZdeUgGd8>

※当日参加は会場で受付

参加費 両日参加 5000 円(学生 1000 円)、1 日参加 3000 円(学生 1000 円)

問い合わせ先 全国性教育研究団体連絡協議会事務局 福迫潮

✉ zenseiren@galaxy.ocn.ne.jp

第 38 回日本助産学会学術集会

WEB 開催

日時 10月5日(土)～6日(日)

テーマ 時空を超えてつながる命と心一人々の尊厳と多様性を支える助産

大会長 井村真澄(日本赤十字看護大学大学院)

問い合わせ先 第 38 回日本助産学会学術集会事務局(株式会社インターグループ)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-2-5 共同通信会館 4F

TEL 03-5549-6909

FAX 03-5549-3201

✉ jam38@intergroup.co.jp

HP <https://confit.atlas.jp/guide/event/jam38/top>